

「ダイワ・マルチアセット・ファンド・シリーズ（愛称 ミルフィューユ）（資産形成型）  
インカム重視ポートフォリオ（資産形成型）」のご投資家の皆様へ

## 繰上償還決定のお知らせ

拝啓 時下ご投資家の皆様にはますますご清祥のことと存じ上げます。  
平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、現在ご投資いただいております「ダイワ・マルチアセット・ファンド・シリーズ（愛称 ミルフィューユ）（資産形成型） インカム重視ポートフォリオ（資産形成型）」（平成十七年十一月設定につきまして、平成二十四年八月三十一日から繰上償還の公告を行ない、同日より平成二十四年十月四日までその異議申立ての受付を行ないました。その結果、異議を申立てた受益者の方の受益権の合計口数が、公告開始日（平成二十四年八月三十一日）現在の受益権総口数の二分の一を超えませんでしたので、予定どおり、平成二十四年十一月八日に繰上償還を実施しますので、お知らせいたします。

当ファンドは、主として、複数のマザーファンドを通じて海外の債券、内外のリート（不動産投資信託）および株式に投資を行ない、安定的な配当等収益の確保と信託財産の成長をめざすファンドとして設定されました。各資産の組入比率は、海外債券七〇％、海外リート五％、国内リート五％、海外株式一〇％、国内株式一〇％を目的に投資してまいりました。

海外債券への投資については、主に利息収入により、基準価額を押し上げる要因となりました。また、国内リートへの投資についても、基準価額の上昇要因となりました。

一方で、平成十九年七月以降、サブプライムローン（信用力の低い個人向け住宅ローン）問題や、金融機関に対する信用不安の高まりなどにより、国内外の株式市場および海外リート市場は大幅に下落し、国内外の株式および海外リートへの投資は基準価額の下落要因となりました。

その後、各国の積極的な金融緩和策などを受けて世界的に景気が回復、国内外の株式市場および海外リート市場は上昇し、基準価額の押し上げに一定の寄与は与えました。しかしながら、平成二十一年初頭までの下落幅を完全に補うまでには至りませんでした。

為替相場については、世界的なリスク回避の動きから円が選好され、主要通貨に対して円高が進行し、基準価額の下落要因となりました。

この結果、平成二十四年十月五日現在の基準価額は九、八三二円、設定当初からの分配金の合計額は一〇〇円と、ご投資家の皆様のご期待に添うに至らず、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

当ファンドの今後の運用につきましては、繰上償還の決定を受け、すみやかにわが国の短期金融資産を中心とした安定運用に切り替えていくことを予定しており、その場合は組入資産の値動きによる基準価額の変動はほとんど無くなりますので、お含みおきくださいますようお願い申し上げます。

なお、別添の「運用経過について」におきまして、簡単ではございますが、設定来の運用状況を取りまとめておりますので、ご一読賜りますようお願い申し上げます。詳しい運用の内容につきましては、償還日以降運用報告書をご高覧賜る予定でございますが、以上取り急ぎご案内申し上げます。

今後の証券投資信託の運用につきましては、ご投資家の皆様のご期待に添えますよう万全を期して努力する所存でございますので、より一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

平成二十四年十月

大和証券投資信託委託株式会社  
代表取締役社長 白川 真